

## 鹿兒島大学に着任して以来早や20有余年

鹿兒島大学名誉教授 田中卓男

歯学部創立40周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。また私にとっても16年半を歯学部教員として過ごしたことから、ことさら感慨深いものがあります。さて、歯学部紀要への寄稿の依頼をいただき、なにを書くか大変迷いました。私が勤務した平成8年から25年までは、研究科や附属病院の統合、卒業試験判定や衛生士学科の設立をめぐるトラブルなど、歯学部部に深刻な事態が連続して大変苦労した時期です。その当時の裏話を、ニクソン大統領やサッチャー首相などの回顧録風書こうかと思いましたが、差し障りのある関係者だらけです。回顧録は諦め、私が着任した頃の歯学部について書こうと思います。

補綴学第一講座教授候補者の公募が始まったのは平成8年の春です。当時、長崎大学の助教授であった私は、中間管理職の業務に疑問を感じ、さらには50に手が届く年齢になったことから応募することにしました。ところが、応募要項を見て魂消しました。応募書類を手書きしろとあるのです。これはワープロを所持していなくても応募できるようにするための人情味に溢れたはからいかと感心したのですが、あとで知ったところでは、手書き文字を見ればその人物の性格が分かるという学部長の提案だったそうです。私は無類の悪筆です。手書きの文字で性格が分かるなら、絶対に教授になれた筈がありません。

着任した教員は何らかの委員会に所属します。私はなぜか退職間際の数年を除いてずっと、学生の福利厚生を目的とする学生委員会に属しました。私が着任した当時は新入生オリエンテーションの一環として、新入生が全員参加する学生委員会主催の合宿がありました。多くの教員や事務系職員も参加して、貸切バスで郊外の宿泊施設に出かけて親睦を図ります。夜は食事会といえは良いのですが、当時は未成年者の飲酒にも今ほどには厳しい目が向けられませんでしたから、夜が更けるまで新入生と職員が肩を組んでの楽しい懇親会が続きます。翌日は特別養護老人ホーム見学です。ところが、二日酔いで気分が悪くなり、施設の担当者の説明中に点滴処置を受ける学生が続出しました。翌



年からは施設見学を初日のスケジュールに変更しましたが、他大学での飲酒事故をきっかけに、学生の飲酒に批判が厳しくなったこともあり中止となりました。でも、飲酒なしでの合宿オリエンテーションの継続について検討されなかったのは、鹿兒島という焼酎で鍛えられた土地柄のせいではなかったかと思うところで

す。今になってみると、学生委員会のメンバーで本当に良かったと思います。ドロップアウトしかかった学生をいかに退学させずに卒業させるか、複数の委員長の元で、その真摯な努力を見ることができました。それが私の教員生活にとってどれだけ大きなメリットとなったことでしょうか。今になってみると、厄介をかけてくれた学生諸君の懐かしい顔が思い浮かびます。最後に鹿兒島大学歯学部の、そしてすべての卒業生諸君のますますの発展を祈念いたします。

現在は鹿兒島に在住して、球磨川に山女魚(ヤマメ)

釣りに出かけます。山女魚は一尺（30cm）を超えるまで成長することはまれで、生涯に一度は尺ヤマメを釣ることが溪流釣りをする人間の憧れとなっています。写真のヤマメは38cmと36cmあります。もう2回も生涯をやってしまいました。

